

第 2 章

日本・中国青年親善交流事業

「日中代表ユースフォーラム」

事業概要

<目的>

日本・中国青年親善交流事業は、昭和 53 年の日中平和友好条約の締結を記念し、日本及び中華人民共和国（以下「中国」という。）の両国青年の相互の友好と理解の促進を図ることを目的として、両国政府が共同して実施している。

本事業は、日本と中国の青年の交流を通じて、青年相互の友好と理解を促進し、日本青年の国際的視野を広げ、国際協調の精神の醸成と国際協力の実践力を向上させることにより、国際社会で指導性を発揮できる青年を育成するとともに、青年による青少年育成活動等の社会貢献活動への寄与を目的としている。

令和 3 年度は、コロナ禍を巡る状況がいまだに予断を許さないことから、昨年度に引き続き、オンラインで開催することとした。

<実施概要>

本事業はオンラインにて実施した。

(1) ディスカッションテーマ及びサブテーマ

「地方創生と日中青年の役割」

(サブテーマ)

- 働き方
- 観光
- ボランティア
- 教育
- E コマース

(2) 日本参加青年の参加資格(主なもの)

- 日本の国籍を有すること。
- 令和 3 年 4 月 1 日現在、概ね 18 歳以上 30 歳以下の者であること。
- 日本の社会、文化等について相当程度の知識を有すること。
- 中国に対して関心と理解があること。
- オンライン事前研修、日本参加青年と中国参加青年とのオンライン交流、オンラインによる事後研修、オンラインによる事業報告会の全日程に参加できる

者であること。

- 国際協力等に高い参画意欲を持ち、事業終了後もその経験をいかして国際協力活動、国際的な社会貢献活動等を活発に行うことが期待できる者であること。

(3) 参加青年人数

日本参加青年 24 名(1 名辞退)

中国参加青年 25 名

(中国参加青年は中国側が選考)

(4) 日程

• 事前研修

➢ 1 日目: 令和 3 年 10 月 9 日(土)

➢ 2 日目: 令和 3 年 10 月 23 日(土)

※両日とも 13:00~17:00 で実施

• 中国参加青年とのオンライン交流「日中代表ユースフォーラム」

➢ 令和 3 年 11 月 6 日(土)

※日本時間 11:00~17:30 で実施

• 事後研修

➢ 令和 3 年 11 月 13 日(土) 13:00~17:00

• 事業報告会

➢ 令和 4 年 1 月 16 日(日) 10:00~13:00

※日本・韓国青年親善交流事業と合同で実施

※プログラム実施

内閣府との契約により、一般財団法人青少年国際交流推進センターが実施に当たった。

事業日程

<事前研修 1 日目>

令和3年10月9日(土)				
時間			時間枠	内容
13:00	～	13:20	0:20	ガイダンス・チェックイン
13:20	～	14:10	0:50	日本参加青年自己紹介
14:10	～	14:15	0:05	休憩
14:15	～	15:15	1:00	意見交換のテーマに造詣の深い有識者講師による講義・質疑応答
15:15	～	15:20	0:05	休憩
15:20	～	16:40	1:20	中国の社会事情に造詣の深い有識者講師による講義・質疑応答
16:40	～	16:45	0:05	休憩
16:45	～	17:00	0:15	課題説明 クロージング

<事前研修 2 日目>

令和3年10月23日(土)				
時間			時間枠	内容
13:00	～	13:25	0:25	オープニング 課題発表
13:25	～	14:25	1:00	意見交換に関する実践講座・質疑応答
14:25	～	15:55	1:30	本事業の趣旨・理解を深めるための講義・質疑応答
15:55	～	16:05	0:10	事後活動の説明
16:05	～	16:10	0:05	休憩
16:10	～	17:00	0:50	研修の振り返りと役割分担 クロージング

<中国参加青年とのオンライン交流「日中代表ユースフォーラム」>

令和3年11月6日(土)				
日本時間			時間枠	内容
11:00	~	11:15	0:15	開会式 挨拶(ビデオメッセージ) 内閣府青年国際交流担当室 黒瀬敏文室長 中国国際青年交流センター 王義軍書記
11:15	~	11:45	0:30	中国側講師による基調講演 テーマ:「中国の貧困扶助と農村振興」
11:45	~	12:00	0:15	質疑応答
12:00	~	12:15	0:15	休憩
12:15	~	12:45	0:30	日本側講師による基調講演 テーマ:「地方創生と日中青年の役割」
12:45	~	13:00	0:15	質疑応答
13:00	~	14:30	1:30	昼休憩
14:30	~	16:40	2:10	テーマ別意見交換 働き方 観光 ボランティア 教育 Eコマース
16:40	~	17:30	0:50	成果発表 働き方 観光 ボランティア 教育 Eコマース

<事後研修>

令和3年11月13日(土)				
時間			時間枠	内容
13:00	～	13:30	0:30	オープニング チェックイン
13:30	～	15:00	1:30	振り返りワーク(前半)
15:00	～	15:05	0:05	休憩
15:05	～	15:25	0:20	報告会について
15:25	～	15:55	0:30	事後活動について
15:55	～	16:00	0:05	休憩
16:00	～	16:40	0:40	振り返りワーク(後半)
16:40	～	17:00	0:20	チェックアウト 事務連絡

<令和3年度日本・中国青年親善交流事業及び日本・韓国青年親善交流事業 報告会>

令和4年1月16日(日)				
時間			時間枠	内容
10:00	～	10:10	0:10	オープニング
10:10	～	10:50	0:40	令和3年度日本・中国青年親善交流事業 日本参加青年による報告
10:50	～	11:30	0:40	令和3年度日本・韓国青年親善交流事業 日本参加青年による報告
11:30	～	11:40	0:10	休憩
11:40	～	12:20	0:40	パネルディスカッション
12:20	～	12:40	0:20	内閣府青年国際交流事業概要説明
12:40	～	13:00	0:20	クロージング 日本青年国際交流機構(IYEO)からの講評 ファシリテーター総括 日本参加青年代表メッセージ

事業評価アンケート

I 趣旨

日本・中国青年親善交流事業は、昭和 54 年度に開始された事業である。

本事業は、日本と中国の青年相互の友好と理解の促進を図ることを目的とし、日本政府と中国政府の共同事業として名称のとおり両国の友好の象徴として実施しているものである。

また、日本青年の育成の観点から、内閣府青年国際交流事業の共通の目的は「世界各国の青年との交流を通じて相互の友好と理解を促進し、国際的視野を広げ、国際協調の精神のかん養と次代を担うにふさわしい青年を育成する」ことであり、事業参加によりコミュニケーション力や異文化対応力等の能力向上が図られることをねらいとしている。

本年度は昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、オンラインにより日本青年と中国青年との交流プログラム「日本・中国青年親善交流事業（オンライン）」を実施することとし、基調講演、日中参加青年同士のグループ別ディスカッション、成果発表等を行った。

今回、本年度事業の成果を測るため、日本参加青年全員を対象として事業終了時にアンケート評価を行うとともに、事前研修及び事後研修時に、能力向上等に関する自己評価の変化について比較調査を行った。

事業終了時のアンケート評価の数値基準は、5段階評価（評価の高い方から5～1）を基本とした。また、日本参加青年の自己評価の変化に関する比較調査については、他の調査との比較の観点から6段階評価（評価の高い方から6～1）を基本とした。

II 評価結果

1. 事業目的の達成度

① プログラムの満足度

「中国青年との意見交換会（日中代表ユースフォーラム）をどのように評価しますか」との問いに対して、日本参加青年は9割以上が5段階評価の4（良かった）以上を付け、高い評価であった。

日本参加青年からは、「専門家の講義と中国参加青年のディスカッションから中国の現状を学ぶことができた。」「留学では決して交流することができなかったような年代・所属の方とディスカッションできたのは、大変良い経験になった。」「中国参加青年と実際に交流する場では、自国を尊重しつつ話さなければいけないなどの外交という面において初めての経験ができた。」などのコメントがあった。

このことからオンライン上であっても、中国参加青年とのディスカッションを通して、知識や友好を深めるだけでなく、日本代表としての振る舞いを経験できたことに価値を見出していることが考察できる。

② 中国青年等との相互理解と友好

「この事業を通じて、あなたと中国の人々の相互理解が深まったと思いますか」との問いに対して、日本参加青年の8割以上が5段階評価の4（深まったと思う）を付けた。一部の青年は3（どちらでもない）を付けた。

日本参加青年からは、「中国を訪れた際は文化面のみの交流であったが、中国参加青年と共通の社会問題に関して議論できたことで中国への理解が深まった。」「中国のボランティアについての実体験エピソードを聞いて理解が深まっただけでなく、日本の地方創生についても興味を持ってもらえたので、相互理解が深まったと思う。」などのコメントがあった。一方で「相互理解するためには、少し時間が足らなかった。」というコメントもあった。

このことから、ディスカッションのテーマに沿った日本と中国の現状を具体的なエピソードを交えて、意見を交わしあったことでインターネットでは得られない情報交換ができ、相互理解が深まったと感じられる。一方、相互理解には1日のみの交流では不十分という意見もあり、中国青年と相互理解を深めるためには課題があることが分かった。

次に「この事業を通じて、あなたと中国の人々との友好が深まったと思いますか」との問いに対して、日本参加青年の8割以上が5段階評価の4（深まったと思う）を付けた。一部の青年は3（どちらでもない）または2（あまり深まったとは思わない）を付けた。

日本参加青年からは、「文化を誇りに思い語れるまでの知識や熱意がある中国参加青年と関り感銘を受けた。将来の自分の理想像や取り組みたいことが明確になった。」「初めて中国参加青年と話をしたことで、今まで持っていた中国の方に対するイメージが払拭された」などのコメントがあった。一方で「短い期間での交流だったので、深いレベルで友好関係を築く所までに至らなかった。」というコメントもあった。

このことから、同じ志を持った中国参加青年と交流する機会を通して、中国参加青年との友好を深めると良い刺激を受けることができたと考えられる。一方、友好を深めるためには交流時間が不十分という意見もあり、中国参加青年と友好を深めるためには課題があることが分かった。

③事前研修及び事後研修の満足度

「事前研修及び事後研修をどのように評価しますか」との問いに対して、日本参加青年は9割以上が5段階評価の4(良かった)以上を付け、高い評価であった。

日本参加青年からは、「事前講義で日中国内の現状や中国人青年について知ることができた。」「事前研修の基調講演では新しい学びを得られ、事後研修ではグループメンバーとの振り返りを通じて、自分自身の新たな一面に気づくことができた。」「事前研修でグループとしての方針決めヒントを得たことで、発表→議論→成果発表の流れをスムーズに行えた。事後研修まで時間があつたことで、より客観的に振り返ることができた。」などのコメントがあった。

事前研修で中国に関する知識を深めることや中国参加青年と交流する際のマナーを身に付けられたことが、交流会当日に大きな手助けとなったことが分かる。事後研修では、中国参加青年との交流を通して得られた知見や気づきを振り返ることで、自己成長を実感できたと考察できる。

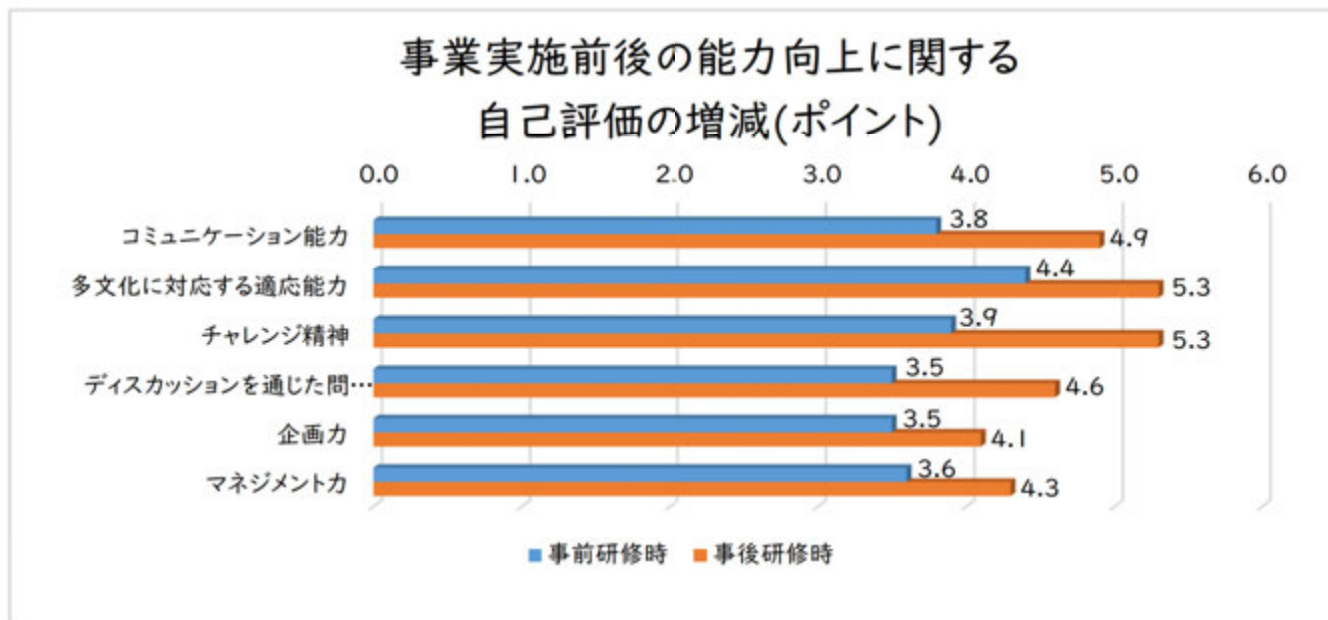
2.日本参加青年の成長

①個人の能力の向上

本事業の日本参加青年に対し、事前研修時と事後研修時での能力の成長の変化について6段階(6=十分備えている、5=備えている、4=ある程度備えている、3=あまり備えていない、2=備えていない、1=全く備えていない)による比較調査を行ったところ、次のような結果になった。

- ・「コミュニケーション能力」:
3.8から4.9となり、1.1ポイントの増。
- ・「多文化に対応する適応能力」:
4.4から5.3となり、0.9ポイントの増。
- ・「チャレンジ精神」:
3.9から5.3となり、1.4ポイントの増。
- ・「ディスカッションを通じた問題解決能力」:
3.5から4.6となり、1.1ポイントの増。
- ・「企画力」:
3.5から4.1となり、0.6ポイントの増。
- ・「マネジメント力」:
3.6から4.3となり、0.7ポイントの増。

(ポイント数については、小数第二位を四捨五入)



全項目において軒並み大幅なポイント上昇が見られた。なかでも、「チャレンジ精神」、「コミュニケーション能力」、「ディスカッションを通じた問題解決能力」は1ポイント以上の上昇があった。

上記項目に共通することとして、中国参加青年の多くが実務経験者や大学院生など、日本参加青年よりもディスカッションのテーマに熟知しているケースが多かった。異文化間でのコミュニケーションに加えて、知識の豊富な中国参加青年と対等にディスカッションを進める努力をしたことが大きな要因だと考察できる。1日のみのオンライン交流ではあるが、本事業への参加がもたらす効果があったことが分かる。

②個人の意識の変化

本事業の日本参加青年に対し、事前研修時と事後研修時での意識の変化について6段階(6=非常にそう思う、5=そう思う、4=ややそう思う、3=あまりそう思わない、2=そう思わない、1=全くそう思わない)による比較調査を行ったところ、次のような結果になった。

・「今後、海外に留学してみたい。」:

5.7 から 5.8 となり、0.1 ポイントの増。

・「今後、海外で働いてみたい。」:

5.4 から 5.7 となり、0.3 ポイントの増。

・「国際的な仕事や仕事以外の活動(ボランティア等)に関わりたい。」:

5.3 から 5.6 となり、0.3 ポイントの増。

・「地域に貢献する仕事又は仕事以外の活動(ボランティア等)に携わりたい。」:

5.1 から 5.2 となり、0.1 ポイントの増。

・「仕事や仕事以外の活動(ボランティア等)において、リーダーシップを発揮したい。」:

4.8 から 5.1 となり、0.3 ポイントの増。

・「自分の言いたいことを英語又は他の言語で表現できるように勉強したい。」:

5.8 から 6.0 となり、0.2 ポイントの増。

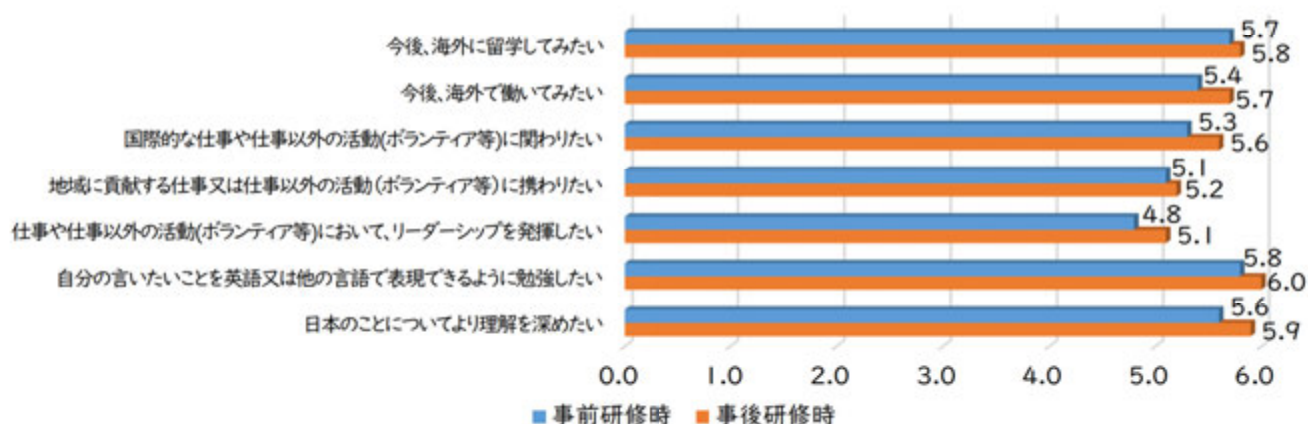
・「日本のことについてより理解を深めたい。」:

5.6 から 5.9 となり、0.3 ポイントの増。

(ポイント数については、小数第二位を四捨五入)

日本参加青年は事業参加前から、設問の内容に対しての意識が高かったようで、事業を通じての大幅な上昇は見られなかった。しかし、全項目のポイントが上昇していることから、本事業が彼らの自己啓発や社会貢献活動への意欲を高めたと言える。

事業実施前後の能力向上に関する 自己評価の増減(ポイント)



Ⅲ 総括評価

最後に、アンケートから日本参加青年のコメントを抜粋し、今回の総括評価をまとめる。

「事業全体をどのように総合評価しますか」との問いに対して、日本参加青年全員が5段階評価中4(良かった)以上を付け、高い評価であった。

日本参加青年からは、「自分と同世代の、豊かな経験値をもつ人たちと知り合うことができたことで、自らの活動を反省するとともに、自分自身についての今後の具体的な目標や課題を見つけることができた。」「中国参加青年と交流しリアルな声を聞くことができただけでなく、様々なバックグラウンドを持つ有識者の方と出会うことができたので良かった。」「初めは異なる青年達と議論する中で発言することに抵抗を感じていたが、回を重ねるごとに発言できるようになった。自分達が伝え発信していくことを学び、将来に繋がったと思う。」などのコメントがあった。

このことから、中国参加青年との交流だけでなく、同じ志を持った他の日本参加青年との交流が参加青年自身の自己成長やモチベーションの向上に繋がったと考えられる。

「事業参加を通じて、社会貢献活動を始めたい、参加したいという意欲などを持ちましたか」との問いに対して、日本参加青年の8割以上が5段階評価中4(ある程度意欲を持った)以上を付け、高い評価であった。

日本参加青年からは、「地方創生のボランティアを調べていく中で、興味を持った団体が沢山あった。これからは積極的に活動の場を広げていきたい。」「自分の興味の軸は、やはり中国であることを改めて感じた。なかでも日中関係や民間交流の分野で貢献したいと感じた。」「事業参加前は、地方創生を行うには地方移住しか手段が無いと思っていたが、事業を通してボランティアやECなどの方法で地方に貢献できることが分かった。」などのコメントがあった。

これらのことから、中国参加青年とのディスカッションだけでなく、ディスカッションに向けての準備段階で日本の現状について調べていく中で、社会貢献活動への意識が高まり、活動意欲に繋がったと考えられる。

「この事業は、将来に役立つと思いますか」との問いに対して、日本参加青年全員が5段階評価中4(役立つと思う)以上を付け、高い評価であった。

日本参加青年からは、「グループ内で自分に何ができるかについて考え行動したことで、自分は何が得意なのかを知ることができた。この経験は今後の活動に活かせる。」「チーム活動を通して、コミュニケーションの大切さや、自分が果たせる役割に気づけた。今後やりたい活動も見つけることができた。」「国の代表として参加青年と協力しながら交流活動に取り組んだことは、自分の自信に繋がった。」などのコメントがあった。

これらのことから、グループで課題に取り組んだことで、「自分には何ができるのか」という問いかけを自分自身に行った青年が多く、自分の長所や眠っている可能性に気づくことができ、青年達は自信を獲得できたと考察できる。

本事業の目的である「日本と中国の相互の友好と理解の促進」に関して、日本参加青年は中国への理解だけでなく、参加青年同士の友好を深めることができた。中国参加青年とのディスカッションを通して、今後の日中関係発展に寄与することを期待できる青年が多く生まれた。以上のことから、本事業の目的を十分に果たすことができたと評価できよう。

